Chiba University

特集 Going for Global Campus
「グローバル・キャンパス・千葉大学」で
“国際人”への一歩を踏み出そう!

特集 「学長の部屋」特別編
齋藤学長が「千葉大学」の魅力を語る

ちばだいプレス

千葉大学広報誌

vol.23
2013 MARCH

特集

「グローバル・キャンパス・千葉大学」で“国際人”への一歩を踏み出そう！

Going for Global Campus

グローバル化が進む現在、国際的に活躍できる人材を育成するため、千葉大学では「グローバル・キャンパス・千葉大学（GCC）」を掲げ、さまざまな活動を展開しています。2012年からは、全学的にグローバルな人材育成を推進するプログラム「SKIPWISE」がスタート。学生の皆さんが気軽に“国際人”への一歩を踏み出せる用意ができました。

渡邉 誠 教授

副学長 国際戦略室長　工学研究科デザイン科学専攻

グローバル化に向けた取り組みが加速

千葉大学では、これまでも積極的に留学生を受け入れるなど、グローバル化に向けた動きはありましたが、2010年に文部科学省の高度専門職業人育成事業に「P-SQUARE」が採択されたことで、全学的なグローバル化への取り組みが本格的に動き始めました。また、2012年12月には総合学生支援センター内に「イングリッシュ・ハウス」がオープンするなど、「グローバル・キャンパス・千葉大学（GCC）」に向けた取り組みがますます加速しています。

学生の皆さんへのメッセージ

全学的なグローバル人材育成推進プログラム「SKIPWISE」は、海外を見てみたいと思う皆さんの背中を押すシステムです。長期留学の前に短期留学を設定できたり、留学先で日本の文化や歴史、今を正しく伝えることができるよう、伝統文化から最先端技術までを学べる「国際日本学」を用意したりと、グローバルな教育環境づくりを進めています。

学生の皆さんには、こうした制度をぜひ積極的に活用してほしいと考えています。構える必要はありません。勉強しに行くというよりも、自分の好きなことをしに行くと考えればいいのではないでしょうか。海外での体験は必ず何かを残してくれるはずなので、まずは門を叩いてもらえればと考えています。

スキップワイズ・プログラムとは？

スキップワイズ・プログラムの内容

- Ⓢkip&Skip ―― 飛び入学や早期卒業を駆使し、多様な修業年限を持つグローバル・プログラムを実施
- Ⓚnowledge Stock ―― 教養教育プログラムとして「国際日本学」を設定。修了者には履修証明を授与
- Ⓘnternational Support ―― イングリッシュ・ハウス活用、コミュニケーション英語の推進、留学業務のシステム化などを実施
- Ⓟrofessional Experience ―― 国際的なインターンシップやボランティア活動への参加支援

もう1つの合い言葉「飛考探留」

スキップワイズ・プログラムを4文字熟語で表すと「飛考探留」 ―飛び、考え、探究し、留学する―になります。この合い言葉で、学生の皆さんが「グローバル人材」として育っていくよう千葉大学は応援していきます。

海外留学に対して、こんな不安を抱いていませんか？

英語の勉強はしていますが、実際に海外に行った際にきちんと英語で会話できるか心配です。

大学内で英語を話す練習ができる！

4月よりオープンするイングリッシュ・ハウス（総合学生支援センター内）では、英語で会話したり、映画鑑賞や英語での講演会に参加したりすることができます。その他にも「コミュニケーション」のための英語を学習する環境が充実しています。

大丈夫！

海外での生活に興味はありますが、いきなり長期間の留学に行くのは不安です。

最初は短期留学から！

スキップワイズ・プログラムでは、在学中に複数回留学を行うことも可能です。いきなり長期の留学が不安な場合は、まずは短期留学で自信をつけてから長期留学に挑むことができます。

大丈夫！

現地で自分の国のことを聞かれた時、どのように英語で説明したらいいかわかりません。

日本の文化を英語で話せるようにする「国際日本学」

このたび導入される「国際日本学」は、日本の文化や歴史、海外の異文化について学べるプログラムです。ランチタイムのようなちょっとした時間に、気軽にお互いの国の文化について会話できるような英語力を身につけることを目標としています。

大丈夫！

他にもこんなプログラムが展開中です

ツイン型学生派遣プログラム

TWINCLE

教育学研究科と他研究科の学生がペアを組んでASEAN諸国の小中高校で授業を行うプログラム

大陸間デザイン教育プログラム

code

米国＋欧州＋日本の大学が協働し、世界に通用するグローバルなデザイナーを育成するプログラム

植物環境デザイニングプログラム

P-SQUARE

アジアの大学間交流を通じて「植物による環境への貢献」をマネジメントできる人材を育成するプログラム

「グローバル・キャンパス・千葉大学」に参加しよう！

スキップワイズプログラムや、その他プログラムに興味がある方は以下のページをご覧ください。

http://www.chiba-u.ac.jp/global/

特集

齋藤学長が「千葉大学」の魅力を語る

グローバル社会の到来による時代のうねりの中、日本の大学は今、大きな変革の時を迎えています。千葉大学では、早い時期からさまざまなプログラムを通して先進的な取り組みの数々を実施しており、各方面から大きな注目を浴びています。今回の特集では、新年度を迎えるにあたり、齋藤 康学長に改めて千葉大学の魅力や、最近の新たな取り組みなどについて伺いました。

気軽に声をかけあえる、千葉大学ならではのオープンな雰囲気

千葉大学には、極めて優秀な学生が毎年入学しており、その優秀さを十分に発揮できる場を皆で作り上げているところが最大の魅力だと感じています。学生一人ひとりの頑張りはもちろんですが、教職員が各々の専門領域の研究成果や活動について、学生たちに積極的に伝えようとしている様子は、何にも代えがたい千葉大学の特徴であり誇りですね。

その一つの例が、昨年夏に行われたスペイン・マドリッドでのソーラーデカスロン大会です。これは学生が設計から建築まで行う太陽光住宅コンペの世界大会で、千葉大学が提案した「おもてなしハウス」は、教職員と学生が一丸となって頑張った象徴的な取り組みでした。

他にも消費エネルギー・初期コストの30%削減を目指す柏の葉キャンパスの「植物工場」の開発など、教職員と学生が非常にオープンな形で関わりながら、さまざまな先駆的な取り組みを実施しています。医療をキーワードに医学部・薬学部・看護学部・附属病院が集まる亥鼻キャンパスのように、学部間の交流が容易な点も千葉大学の大きな利点です。

「教職員と学生の距離が日本一近い大学でありたい」。これは、私の学長就任以来の大きな願いです。最近では学内を眺めていても、あらゆる場所でお互い気軽に声をかけあえるような雰囲気が醸成されていて、距離がどんどん近づいていることを肌で実感できてうれしいですね。

全国の注目を集める、千葉大学の大学改革実行プラン

国や社会が目まぐるしく変わり、世界の状況が刻一刻と変わりつつある現在、日本の各大学も大学改革、および機能強化を図ることを強く求められています。

そんな中でも千葉大学は、独自に検討している大学改革実行プランが高く評価されており、厳しい競争の中から大型の外部資金を獲得することができています。平成24年度は、主に次のプログラムが採択されました。

●グローバル人材育成推進事業／ツイン型学生派遣プログラム（ツインクル）

学生の活躍の場を世界に広げるための、グローバルな人材育成を目的にしたプログラム。本誌 p2-3で紹介しています。

●文部科学省博士課程教育リーディングプログラム

専門分野の枠を超えてグローバルに活躍するリーダーの養成を目的とした当事業において、千葉大学では、これまでの実績と強みを生かし、難治性の免疫関連疾患（アレルギー、癌など）に特化した「治療学」の推進リーダーを養成する「免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム」や、世界を牽引する災害看護グローバルリーダーを養成する「災害看護グローバルリーダー養成プログラム（5大学共同）」等を実施します。

●臨床研究中核病院

千葉大学医学部附属病院は、このたび日本発の新たな医薬品や医療機器の開発を促進するための中核的な病院として採択されました。そこで得られた最先端の研究成果を医学生らに還元していきます。

また、学内では次の施設の整備を行っています。

●アカデミック・リンク・センター

従来、大学の附属図書館というと静かな場所で本を読む場所というイメージでした。平成24年3月にオープンしたアカデミック・リンク・センターは、単に本を読むばかりでなく、皆でコーヒーなどを飲みながら大いにディスカッションができる「情報交換の場」としての機能も果たします。また、入り口すぐ横で定期的に行われるセミナーやイベント、通称「1210あかりんアワー」は、学生や教職員それぞれがお互いに感じていることを率直に話し合える有意義な場です。

●総合学生支援センター

千葉大学には、学生生活や履修相談など、学生が困っていることをいつでも相談できる学生支援センターがあります。昨年12月には、1階のラウンジに「イングリッシュ・ハウス」がオープン。そこでは常に会話が英語で行われ、テレビや新聞も、かかってくる電話もすべて英語のみという遊び心あふれる環境で、楽しく英語でコミュニケーションできます。留学生や海外からのお客様も来られて、さまざまな交流が広がる場です。

その他にも、千葉大学を中心に千葉県内で調査を行い、環境要因が子どもたちの成長・発達にどのような影響を与えるのかを明らかにし、〝生前からの予防医学〟を目指すちばエコチル調査や、高効率で低公害なエンジンの実用化検証を目的とした次世代モビリティパワーソース研究センター（設置予定）等も注目されています。

世界に飛び立ち活躍する グローバル人材の育成へ

平成25年度の千葉大学は、さらなるグローバル化を推進していく予定です。これから若者が世界で広く活躍するには、言葉だけでなく相手をどう理解するかという相互理解が極めて重要です。相手国の文化や習慣を尊重し、理解できる人間として海外に飛び立ってほしい。それには専門性だけでなく、日本や海外についての基本的な知識や教養が非常に大切になります。そのことも踏まえて今後の教育を展開していきたいと考えています。

また、地域振興における大学の役割が重要視される今、地域との連携も現在の大きなテーマです。以前から千葉大学では地元企業に大学の知的財産を提供するためのシステムを構築してきましたが、今後はそれをさらに進展させ、企業との協働で数々の研究プロジェクトを実践する予定です。

学生の皆さんが千葉大学を選び、入学された理由にはそれぞれの目的や夢があると思います。新入生、そして在学生の皆さんには、そうした思いを大切に育みながら、ぜひ心からの楽しい日々を送っていただきたい。これは私自身の生き方のモットーでもあります。

日々の学業や研究を地道に続ける千葉大生は、時に「真面目」「おとなしい」というイメージで語られることがあります。それは千葉大生の美徳でもあると思いますが、自分が積み重ねてきた実績を人々に伝えるには、もう少し前に出ることも大切だと感じています。あと一歩とは言わず、もう半歩だけ前に出て、自分自身をアピールしてみてはいかがでしょうか。

ぜひ楽しい学生生活を送りながら自己の可能性や広い世界を見据えて、輝かしい未来を切り拓いていってください。

西千葉キャンパス 齋藤学長と出会えるのはココ!

齋藤学長は、朝や昼休みのちょっとした時間に、以下に紹介する場所を中心に散策しています。「学生の皆さんとお話しするのが何よりの楽しみ」という齋藤学長に気軽に声をかけて、その日にあった出来事、普段から考えていること、将来の夢などを話してみてください！

❶ 附属小・中学校前

教育学部の学生たちは今ここで何をしているのかな？と、思いを馳せながら歩いています。

❷教育学部音楽棟前

建物の中から時おり聞こえてくる音楽に耳をすましています。

❸ゴルフ練習場前

並木道からゴルフ練習場にかけては、特に気持ちのいい散策コースです。私もゴルフの練習をしたいのですが、なかなか時間がないなぁと残念に思いながら通り過ぎています（笑）。

❹工学部棟の渡り廊下を突っ切る

渡り廊下周辺は、とても賑やかで活気がある場所ですね。

❺フォーミュラークラブの小屋の前

はつらつとクラブ活動をしている学生さんたちの姿を見ていると、私も大いに元気づけられます。

❻工学部棟左側の並木道

緑が多い並木道は非常に清々しく、千葉大学の奥深さを感じさせてくれる場所です。

❼附属幼稚園前

幼稚園の子どもたちは一体どんな遊び方や行動をするんだろうと、立ち止まって眺めることが多いですね。

❽総合学生支援センター

昼の時間帯は焼きたてパンのいい匂いがします。利用率も非常に高く、皆さんが食事と会話を楽しんでいる様子を見るのがうれしいですね。

❾アカデミック・リンク・センター

オープンして間もない施設なので、ぜひ皆さんに利用してほしいという思いから、散歩の途中にふらりと立ち寄って様子を覗くことが多いですね。「1210あかりんアワー」のセミナーやイベントに参加することもあります。

❿かたらいの森

学生の皆さんがクラブの練習をしていたり、楽しそうに歓談や議論をしている姿をよく眺めています。生き生きとした学生生活の一端を垣間見ることができる、千葉大学のシンボル的な場所です。

⓫南門から事務局方面への道

朝によく通るルートです。自転車の駐輪マナーが学内で大きな問題になっているので、駐輪スペースの状況をチェックすることもあります。

私は臨床医として長年活動してきた経験から、自分の目で実際の現場を見て考える「現場主義」をモットーにしています。日々の散歩はそのためにも大切な習慣です。大学は今どんな状況なのか、学生一人ひとりがどんな心持ちでいるのか、クリアな現実を見つめることができるからです。朝や昼休みの30～40分ほどの時間で、毎回ルートを変えつつ学内を歩き回っています。

学生の皆さんが私に挨拶や会釈をしてくださるだけでうれしく思いますが、もし時間があれば積極的に話しかけてみてください。皆さんのお話は私にとって興味深いものばかりです。「のびのびと生きたいから、卒業後はイギリスに留学するんです」という女子学生の将来の夢を聞いた時は、心からのエールを送りました。「大学のこんなところを改善してほしい」などの貴重なご意見は、いろいろな場で話題にさせていただき、大学運営にフィードバックさせています。ぜひ、皆さんの生の声を聞かせてください。

千葉大学
大学院
工学研究科

ロボット工学研究室

―並木グループ―

研究室訪問 3

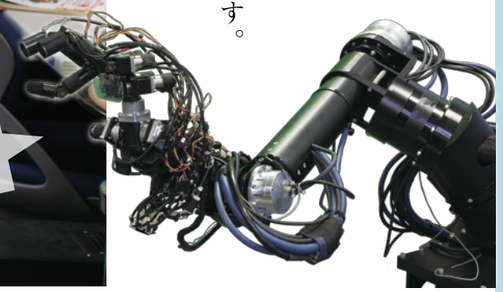
危険な場所での遠隔操作をはじめ、今後ますます重要性が高まっていくであろう「ロボット」。ロボット工学研究室並木グループでは、こうしたニーズに応えるため、高速で反応するロボットやスムーズに 遠隔操作できるロボットを開発しています。同研究室の並木明夫准教授にお話を伺いました。

並木研究室の所属学生は修士6名、学部3名の9名。少数精鋭メンバーで、日々研究に打ち込んでいる

エアホッケーロボットは、パックの軌道を予測するのではなく、センサーを通してロボットが反応する。「普通にやれば人間に負けることはありませんよ」と並木准教授

遠隔操作で動く「マスター・スレーブロボット」。Flexible Sensor Tubeと呼ばれる軽くフレキシブルな多リンク機構を用いることで、操縦者の負担を軽くし、より軽快で素早い操作が可能となった

ジャグリングロボットは関節の動きとスナップを使い、1本の腕で2つのボールを交互に投げ上げる



生物が持つ機能美を、多様なロボットで表現

――並木先生がロボット研究に進まれた経緯はどのようなものだったのでしょうか。

実をいうと、子どものころからロボットに夢中だったというわけではなく、もともとは生物の体の仕組みに興味があって、図鑑が好きな子どもだったんです。ロボットに限らず、メカニズムや仕組みを理論的に解明することには、昔から興味がありましたね。生物の動きや体の構造というのは、機能的で美しい。大学の工学部に進んだときに、ロボットを突き詰めていくと、そんな機能的な動きを自分でつくりだすことができるということを知って、ロボットの研究を始めたんです。

幸い、大学院生のときに、視覚と連動して高速反応するロボットハンドのシステムを開発することができ、それが今の研究の基礎となっています。

――今、研究されているロボットについて教えてください。

大きく分けると、「自分で反応して動くロボット」と「人間が操作するロボット」ということになります。自分で反応して動くロボットは、製造・生産ラインなどの産業利用が考えられます。私の研究室では、ジャグリングができるロボットハンドやエアホッケーロボットを製作して、視覚センサーや触覚センサーを使った正確で高速な動きの研究をしています。

一方、人間が操作するロボットは、遠隔操作で人間の動きをロボットが再現するというもので、危険な場所での作業などに向きます。遠隔操作ロボットは、災害や事故の現場などでの需要が高くなっていて、その重要性は今後ますます大きくなっていくでしょう。私の研究室で開発しているマスター・スレーブロボットは、操縦者が装着する装備が従来のものに比べて格段に軽いため、移動性や操作性が高く、メンテナンスも手間がかからないよう工夫しています。また、スイッチひとつで、操作するロボットを切り替えるなどの研究も進んでいます。

――先生が開発されたロボットハンドのポイントはどのような点でしょうか。

遠隔操作ロボットの場合は、人間が操作するため、ある程度は人間の体の構造に似せる必要があるのですが、ロボットハンドの場合は必ずしもそうではないんです。というのも、人間は筋肉の補助がありますが、ロボットはモーターで動きますので、そもそもの特性が違うんですね。ロボットはロボットの構造や仕組みに合わせてつくるほうが、性能を上げることができます。私の研究室で開発したロボットは、細かい作業や速度を要求される作業を正確に行えるよう、指の数、指先の動作、関節の数などをロボットの特性に合わせています。先ほどお話ししたジャグリングができるロボットハンドは、世界的に見ても他に例を見ないものだと自負していますが、これもロボットとしての機能を最優先したから実現したものです。

――今後の研究についてどのようにお考えですか。

ロボット研究は、実用化され社会の役に立つことが最重要ですから、これまでの研究をさらに推し進めて、より高性能なロボットを開発していきたいですね。特に遠隔操作ロボットには社会的なニーズが高まっているので、今後も力を入れていきたいと考えています。また、これは個人的な夢ですが、運動能力にしろ知能にしろ、人間を超えるようなロボットが実現可能なのかどうかを、突き詰めて確かめたいと思っています。

――では、最後に学生へのメッセージをお願いします。

千葉大学の学生は、総じて能力は高いと思いますが、もっと我が強くてもいいと思います。研究というのは競争の世界ですから、他大学や他の研究機関の先を越さなければナンバーワンにはなれません。せっかくの優秀さを活かすためにも、ぜひ自分の信じた道を切り拓くという気概を持ってくれるといいなと思います。

並木明夫（なみき・あきお）
千葉大学大学院工学研究科人工システム科学専攻機械系コース（工学部機械工学科）准教授。東京大学工学部計数工学科卒。同大学院で博士課程修了。工学博士。高速反応が可能な多指ロボットハンド、視覚や触覚などの複数の感覚情報を統合した遠隔操作ロボットなどの研究を行っている。

もっと知りたい千葉大学

地域に根差し、愛され、60年を超える歴史を重ねてきた千葉大学。本コーナーでは、前回からスタートした「もっと知りたい千葉大学」を拡大し、西千葉キャンパス、亥鼻キャンパス、松戸キャンパスに関するトリビアを紹介していきます。これを読めば、あなたも“千葉大学通”？

【解説】
国際教育センター
見城悌治 准教授

千葉大学シンボルマーク、デザインの意味は？

これは、千葉大学の頭文字「C」と「D」を重ね、さらに「千」の文字を加えたデザインから構成されています。形は無限の生命力を象徴する植物の種子をイメージし、赤色は情熱を、白色は純粋を表現しています。大学創設時の1949年に171点の応募作品の中から選ばれたこの作品は、工芸学部（当時）講師の赤穴宏氏の作品でした。赤穴氏は、60歳まで工学部教授を務めた後、武蔵野美大油絵学科教授に転出し、洋画家としても多くの作品を残しています。

医学部に残る「国際支援」の史跡とは？

1911年に辛亥革命が起こった際、千葉医学専門学校（当時）には、40名余の清国留学生がいました。彼らが「赤十字隊を結成し、敵味方ない人道的救援に赴きたい」と訴えたのを受け、教職員や学生が医薬品購入のため義援金を拠出し、さらに教授は緊急医療技術を伝授しました。復学した留学生たちが、学校関係者に感謝するため建てた「紀念碑」は、今も医学部本館前にあります。この碑は国際支援・交流の得難い証人と言えるでしょう。

千葉大学発足時に構想されていた幻の学部とは何か。

1948年の「千葉大学設置申請」には、千葉地域の特色を活かすため、水産学部・畜産学部の構想も掲げられていました。特に、前者については、「三方を海に囲まれ、漁業が盛んだが、漁法などは古く停滞している現状を、科学的に啓蒙する指導者・技術者を養成したい」とする千葉県当局が、館山市への設置を訴え、経費の一部を負担する準備をしていました。また大学側も積極的な姿勢を見せていたのですが、東京水産大学設置が先行したこともあり、結局、幻に終わりました。

千葉大学発足後、資金不足を補うため実施した意外な方法とは？

千葉県の主催で、1949年冬に実施された「千葉大学振興宝くじ」です。それを大学や会社、各市町村を通じて販売しました。また教職員や学生にも割当枚数があり、自らの教学環境を整えるため、北風の中、知人や市民に売り捌いたそうです。その結果、一千万円ほどの収益があがり、いくつかの建物の新築が叶いました。新制大学を作り上げようとする教職員・学生・地域社会の熱意の賜物であったと伝えられています。

園芸学部内にはもともとアメリカ式庭園もあった。

園芸学部の四季を今も彩るサンクガーデン（フランス式庭園）、前庭（イタリア式）、新庭園（イギリス式）は、1910～14年に教員と学生が協力して造りあげたものです。さらに、刈込式のアメリカ式庭園や枯山水の日本庭園、また牡丹園もあり、そこを訪れた与謝野晶子が詠んだ歌も残っています。後三者は、戦後の校地整備で消滅しましたが、その他の庭園群は、２００９年、日比谷公園などとともに、近代造園遺産に選定されています。

TOPICS

いすみ市で発見された新種植物“イスミスズカケ”

INNOVATION

２００９年にいすみ市内で採取された植物が、このたび園芸学研究科の上原浩一准教授、安藤敏夫名誉教授と千葉県立中央博物館の共同研究チームの研究により新種であることが明らかになりました。この植物は、生息地にちなんでイスミスズカケと命名され、学名は発見者の名前を取ってVeronicastrum noguchii K. Uehara, K. Saiki & T. Andoと付けられました。

千葉大学コミュニケーションマークが決定しました

INFORMATION

CHIBA UNIVERSITY

千葉大学では、平成23年度に策定した千葉大学における国際化の方針を受け、そのスローガンとなっている「グローバル・キャンパス・千葉大学」のもと、国際的に千葉大学とわかる新たなコミュニケーションマークを設けることとなり、公募を行いました。

91点の応募作品から選考委員会において審査を行った結果、本学工学部デザイン学科4年 瀧山 愛さんの作品に決定しました。

これまで長く使用され、親しまれてきたシンボルマークはこのたび学章となり、今後は新しいコミュニケーションマークがいろいろな形で活躍する予定です。

ジェフユナイテッド市原・千葉の選手が小児病棟を訪問

INFORMATION

1月18日、千葉大学医学部附属病院 小児病棟にジェフユナイテッド市原・千葉の選手、監督、スタッフの方々が訪れ、入院中の子どもたちとの交流が行われました。ホールに集まった子どもたちは、選手たちとゲームや写真撮影をして楽しみました。また、選手たちはクリーンルームや病室へも足を運び、病室から出ることのできない子どもたちのもとへも訪れ、元気づけました。お別れの際には、子どもたちから選手へお礼の花束を、選手たちから子どもたちへサインの入った大きなフラッグを、それぞれプレゼントしました。

本学卒業生が厚生労働大臣に就任

INFORMATION

本学法経学部出身の田村憲久さん（S63・3卒業）が厚生労働大臣に就任しました。去る1月11日、大臣のもとへ齋藤学長、池田理事らが表敬に伺いました。

千葉大学で学ぶ留学生の皆さん

表紙の人

皆さんの出身国は、左から中国、ロシア、ルーマニア、インドネシア、ドミニカ、モザンビーグ

千葉大学には、54カ国961名（2012年5月1日現在）の留学生が在籍しています。今回は、特集「グローバル・キャンパス・千葉大学」にちなみ、留学生の皆さんに登場していただきました。皆さんに千葉大学の印象を聞くと、「何事も自分で乗り越える力がある学生が多い」「緑が多くてほっとできる」「友人や先生が親切でやさしい」「いろいろな人たち、いろいろな文化とふれあえる」とのこと。皆さん、充実した学生生活を送られているようです。

千葉大学優秀発明賞4件を表彰

AWARD

本学では学術研究成果をもとに毎年多くの特許出願を行っています。今年度出願された117件の中から、特に優れた4件の発明に対して平成24年度千葉大学優秀発明賞を贈呈し、表彰しました。表彰式は2月7日に行われ、学長から表彰状と盾が贈呈されました。

vol.23

INDEX

02 特集 Going for Global Campus
「グローバル・キャンパス・千葉大学」で
“国際人”への一歩を踏み出そう！

04 特集「学長の部屋」特別編
齋藤学長が「千葉大学」の魅力を語る

08 研究室訪問
大学院工学研究科 ロボット工学研究室
―並木グループ―

10 もっともっと知りたい千葉大学
これを読めば、あなたも“千葉大学通”になれる

11 TOPICS

ちばだいプレス

編集・発行／千葉大学 企画総務部総務課広報企画室　〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号
TEL. 043-251-1111（代表）　http://www.chiba-u.ac.jp　E-mail : bag2018@office.chiba-u.jp